國學院大學學術情報リポジトリ

開会の挨拶：

講演録平成28年度教育開発シンポジウム学士課程教育における共通教育：次なるステージへ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤井, 益久, 柴崎, 和夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002123

平成28年度教育開発シンポジウム
学士課程教育における共通教育
一次なるステージへー

【日時】平成29年2月18日（土） 13：00～17：00

【会場】國學院大學渋谷キャンパス 常磐松ホール

【主催】國學院大學教育開発推進機構

【次第】

第1部 基調講演 13：10～14：10

「学士課程教育における共通教育の質保証：カリキュラムの方向性と成果アセスメント」

山田礼子氏（同志社大学高等教育・学生研究センター長、社会学部教授）

第2部 シンポジウム 14：25～17：00

【各大学からの報告】

「RIKKYO Learning Style における全学共通科目」

佐々木一也氏（立教大学全学共通カリキュラム運営センター部長、文学部教授）

「基盤教育の改革と東洋大学スタンダード」

神田雄一氏（東洋大学副学長、教務部長、理工学部教授）

「國學院大學の共通教育改革：課題と展望」

大久保桂子氏（國學院大學副学長、教務部長、共通教育センター長、文学部教授）

【総括討論】

司会 柴崎和夫氏（國學院大學教育開発推進機構長、人間開発学部教授）

※所属・職名等は開催当時のもの

開会の挨拶

（司会）お待たせいたしました。ただいまから、國學院大學教育開発推進機構、平成28年度教育開発シンポジウム、「学士課程教育における共通教育一次なるステージへー」を開催させていただきます。本日の全体進行は、私、教育開発推進機構の中山が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、開催に先立ちまして、本学学長、赤井益久よりご挨拶を申し上げます。

■赤井益久（國學院大學学長）

（赤井）皆様、こんにちは。國學院大學学長の赤井でございます。本日は、本学の教育開発推進機構開催のシンポジウムに多数お越しくださいませ、誠にありがとうございます。皆様がいらっしゃいますこの國學院大學は、再開発を19年ぐらいかけて行いまして、一番新しい建物が平成27年5月に完成しております。まだ一部、若干再開発を残しているところはございますけれども、ほぼ完成したと申し上げてよろしいかと思います。

そういう意味では、入れ物は新しくなりました。これからはその入れ物、器に入れる中身、教育の中身、つまりは質というものが問われていくかと思います。実は國學院には機構がふたつございまして、ひとつは研究開発推進機構と申します。この建物にその組織が入っております。この建物自体は、AMC棟、アカデミック・メディア・センターと申します。それを平成19年に研究部門の機構として立ち上げました。

教育の方は、実はそれから2年遅れまして、平成21年に教育開発推進機構として立ち上げました。そのときの教育開発推進機構にはセンターが3つございまして、教育開発センター、学修支援センター、そして本日、テーマになります共通教育センターという3センターで出発したわけです。その後、LLC（ランゲージ・ラーニング・センター）ですとか、教職センターを包含して、少し組織が大きくなりました。設置基準の大綱化以降、多くの大学が教養教育を、どちらかというと専門教育の方に吸収してきたと捉えて間違いがないと思います。國學院大學は平成5、6年に2年間議論を重ね、教養教育が重要であると考え、平成7年に「教養総合」という教養教育のプログラムを出発させました。

それから十数年経過して、制度疲労・組織疲労というのを起こしまして、早くに見直さなければならないということでありました。そして2年間ほど議論していただきまして、平成29年のこの4月から、共通教育プログラムを新たに出發させるということになりました。

そういう意味では一貫して、教養教育、共通教育を重視して参りました。今、世の中はどうなっているかという、大学教育は専門教育ではない、ジェネリックスキル、汎用的能力の涵養にあるのだというふうになっていまして、我々の考え、あながち間違っていなかったのではないかというふうに思っております。ぜひ本日は高等教育の分野で、我が国のリーダーと言ってもよろしいと思いますが、山田礼子先生に基調講演をしていただき、立教大学からは佐々木先生、東洋大学からは神田先生、そして本学からは大久保先生に発題していただきまして、これからの共通教育がどうあるべきなのかということ、皆様とご一緒に考えていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

（中山）赤井学長、ありがとうございました。続きまして、本シンポジウムを主催する國學院大學教育開発推進機構長、柴崎和夫よりご挨拶、並びに本企画の趣旨をご説明申し上

げます。

■柴崎和夫（國學院大學教育開発推進機構長）

（柴崎）今ご紹介にあずかりました、教育開発推進機構の機構長を務めている柴崎と申します。今、赤井学長からお話がありましたように、本機構は設立されて8年目になりますが、この間、今回を含めて4回、教育開発シンポジウムを開催しております。前回までの一貫したテーマは建学の精神ということでありました。私立大学はそれぞれいろいろありますけれども、國學院のようにいわゆる創立者がいない大学もございしますが、個々の大学は独自に建学の精神に基づいて、当初の建学の精神を現代にどう生かすか、教育をどのように人材育成に生かすかという観点で、各大学が努力してきているところであると考えます。

今、学長の話にもございましたが、教育開発推進機構というのは、國學院大學の教育力の向上というところを支援する組織として設置されています。しかしその大きな要素のひとつは、やはり学士課程教育において専門教育につなげる部分の教養教育といえますか、来年度から國學院大学では共通教育と申しますけれども、その部分をどのように構築していくのか、そこに建学の精神をどのように生かしていくかということを考える組織として位置付けられているのだと考えます。

先ほど申し上げましたように、今回4回目になるこのシンポジウムの底流となるキーワードは建学の精神でございます。大学教育というのは、皆さんご存じのようにこの約20年で、大きく変わってきました。今でも変わり続けてきております。どの大学も少子化の中で、生き残りをかけて努力しておりますけれども、今のキーワードは教育力となっております。かつて大学というのは研究と教育との両輪と言われてきましたが、実際的には研究のところに目が行くことが多かったと思います。今般はどの大学もやはり教育力、どのような人材を送り出すかということに力を注いできております。

そこで、私立大学でキーワードになるのは建学の精神、どのような精神を持って学生を教育していくかということでございます。これまでも3回、建学の精神と教育という点でシンポジウムを開催してきましたが、世の中の動きはますます急でありまして、学士課程教育という言葉も、一般的な用語として定着いたしました。来年度から、大学のいわゆる3ポリシーというものを明示することが義務化されるような形になってきておりますし、教育そのものも、その3ポリシーとの関係を明示するということが当たり前のものとして、求められる時代となりました。

そういう中で、各大学が学士課程における教養、いわゆる共通教育の部分と専門とをどう結びつけるか。しかも、専門教育というのはある意味で結果が見えておりますので、その成果を示しやすいところもあるのですが、そのもとになっている共通教育と言われている部分というのは、どうやってそれがちゃんとなされているか、あるいはその大学らしさ

がそこに込められているかというのを示すのはなかなか難しいのが実情です。

今回ご登壇なされる先生方、山田礼子先生には基調講演をお願いしますけれども、佐々木先生にご発表いただく立教大学さんは20年来さまざまな取り組みをなされていますし、神田先生にご発表いただく東洋大学さんは今年度から、そして國學院大學は来年度から、新たな共通教育が開始されます。

前回のシンポジウムから2年経ちまして、今回のシンポジウムでは新たな視点で教養教育、建学の精神、それから学士課程の意味、そしてまた社会に成果を示すということはどういうことかということについて考える機会を、皆さんに提供することが出来たらと思っています。シンポジウムの後には情報交換会もごございます。今回、お忙しい中、参加してくださった皆さんにとって、よきシンポジウムであることを祈念しておりますので、しばしの時間、楽しんでいただければと思います。本日はどうも、ご参加ありがとうございます。